

教育協カウィーク サイドイベント②
セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン主催

教育を攻撃から守る国際デー記念イベント
「専門家とユースと考えよう
～教育を攻撃から守るために国際社会と私たちができること～」

1. 背景

紛争などの危機的な状況下では、食料、住まいや保健医療などの支援が優先され、子どもたちの教育支援はあと回しにされがちである。また、学校が軍事利用されるケースがさまざまな地域で確認されており、これらの学校は敵対する勢力から攻撃を受けやすくなり、子どもたちの教育の機会を奪う要因となっている。このような状況を受け、2020年、国連総会は毎年9月9日を「教育を攻撃から守るための国際デー」とすることを全会一致で採択した。この国際デーの採択により、教育を攻撃から守ることの重要性が世界的に広く認識され、国際機関や市民社会による教育保護のための国際的な連携と取り組みが強化されることが期待されている。

「教育を攻撃から守る国際デー」の採択は、開校中の学校の軍事利用の禁止を明示した「学校保護宣言 (Safe Schools Declaration)」の発表から5周年という記念すべき日に行われた。「学校保護宣言」には、現在118カ国の国々が賛同を示しているが、日本は残念ながらまだこの宣言への賛同を表明しておらず、子どもたちの教育の権利の保障に向け、早急な賛同が求められている。

また、「教育を後回しにはできない基金 (Education Cannot Wait, 以下 ECW)」は、紛争などの緊急期・長期化する危機下の教育に特化して資金配分（あるいは資金援助）を行う唯一の国連の基金であるが、日本政府はこの機関の活動の重要性を認識しており、日本以外のG7各国と同様に資金拠出をすることが求められている。

2. 目的

紛争下では、被害を受ける子どもたちや学校の再建等に関する直接的な支援が継続的に行われており、人々のレジリエンス（回復力）や地域の復興などにさまざまな形で寄与している。一方、教育機関や一般市民への攻撃が続いていることも事実であり、このような攻撃をどのように減らしていけるかを改めて考える必要がある。

今回のセッションでは、教育への攻撃を減らすために「学校保護宣言」の普及・各国における実施を進めている「教育を攻撃から守る世界連合 (Global Coalition

to Protect Education from Attack, 以下 GCPEA)」、また紛争下でいち早く教育支援を行うための資金配分を行っている ECW をお招きし、それぞれの取り組みがもたらすポジティブな変化や、学校への攻撃を未然に防ぐために国際社会ができることについて伺います。

ゲストスピーカーの話を通し、学生や市民の方々が、教育を攻撃から守る国際デーや紛争などの危機下の教育の現状について知り、紛争下の教育を守るために、個々の立場に応じた支援や行動を起こすきっかけとすることを目指す。

また、教育支援に従事している関係者には、各機関の活動紹介を通し、「学校保護宣言」への賛同がもたらす意義や教育協力への継続的な資金拠出の必要性について理解を深める機会を提供する。さらに、支援活動において、こうした国際機関と連携することが個々の活動にどのようなポジティブな影響を及ぼすのか、今後の取り組みに対して新たな示唆を得ていただく場とする。

なお、プログラムは全体を通して、セーブ・ザ・チルドレン(以下 SCJ)のユース・メンバーである大学生が司会進行を務める。

3. 主な参加対象者

- ・ 国際教育協力や紛争下の教育に関心のある大学生および市民
- ・ 国際開発・国際教育協力に関わっている JICA や NGO 関係者、開発コンサルタント
- ・ SDGs や平和学習などを担当されている学校・市民団体関係者 等
- ・ 紛争下の教育支援に関わる政府機関や国際機関関係者



4. 使用言語



- ・ 日本語
 - ・ 英語
- ※通訳は英→日の逐次通訳のみ

5. 開催方法

- ・ オンライン開催のみ

6. 登壇者（写真付きプロフィール）

<p>Global Coalition to Protect Education from Attack (GCPEA) (教育を攻撃から守るため世界連合) Acting Advocacy Advisor (政策提言顧問代理) Apolline Montoya (アポリン・モントヤ)</p>	
<p>英ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス (LSE) にて人権をテーマに修士号を、豪ウオタールー大学にて平和と紛争研究の修士号をそれぞれ取得。国連事務局長室と国際刑事裁判所にてインターンシップ経験後、ジュネーブ英国政府代表部の人道支援チームでの勤務を経て現職。現在は「学校保護宣言」と「武力紛争下で学校や大学を軍事目的使用から守るためのガイドライン」の指示賛同および実施促進に関するアドボカシー活動に従事。</p>	
<p>Education Cannot Wait (教育を後回しにはできない基金) Programme Funding Manager (助成金マネージャー) 大島 義幸 (おおしま よしゆき)</p>	
<p>京都大学経済学部卒業後、セーブ・ザ・チルドレン（米国）などの団体での研修を経て、外務省 JPO 試験合格。国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) モザンビーク、南アフリカ現地事務所にてプログラムオフィサーとして勤務。国連開発計画 (UNDP) の採用試験に合格し、ニューヨーク本部アジア太平洋地域局に配属され太平洋島嶼国、アフガニスタン、イランを担当。UNDP 勤務中にニューヨーク市立大学で公衆衛生学修士号を取得。新設の財団、エルマ・フィランソロピーに転職し、保健担当のプログラムオフィサーとして、南部アフリカ諸国の児童・青少年を対象にした助成金プログラムを担当する。財団離職後は国連合同エイズ計画 (UNAIDS) 事務局本部に技術顧問として入局し、エイズ予防啓発や陽性者へのサポート等</p>	

<p>のプログラムの運営に携わる。2020年からは「教育を後回しにはできない」基金（ECW）へ異動し、助成金マネージャーとしてECW ジュネーブ事務所に勤務、ECWの全助成金の管理運営を行なっている。</p>	
<p style="text-align: center;">公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン ユース/ 宇都宮大学国際学修士課程1年 菊地 翔（きくち かける）</p>	
<p>宇都宮大学大学院にて国際法の研究を行っている。セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンのアドボカシー部でインターンを行うとともに、2021年2月からユース・チームに加入。これまでに、日本のECWへの拠出や学校保護宣言への賛同を求めて、国会議員との対話や各省庁に対する提言を行ってきた。そのほかに、SNSで紛争下の子どもに関連する情報発信や、イベントへの登壇を通じて国際教育協力の必要性を訴えてきた。</p>	
<p style="text-align: center;">公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン ユース/ 国際基督教大学教養学部学士課程4年 朝倉 凜花（あさくら りか）</p>	
<p>大学入学と同時にセーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、ユース・チームに参加。以来「紛争下の子どもの人権を守る」をテーマに勉強会や写真展の開催、SNSを通じた社会啓発活動、省庁政党へのアドボカシー活動などを行う。大学では国際関係学を専攻、平和研究を副専攻しており、2022年8月から一年間はアメリカ東海岸のMiddlebury Collegeに留学し、政治学部で学びを深めた。卒業論文に向け、紛争下での教育の継続と地域協働型教育が平和構築に与える影響について研究予定。</p>	
<p style="text-align: center;">公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン ユース/ 立教大学社会学部社会学科4年 千葉 奏美（ちば かなみ）</p>	

2021年6月からセーブ・ザ・チルドレン、ユース・チームに加入。2022年9月から2023年2月までUN Women 東ティモール国事務所にて、United Nations Youth Volunteer として、Women Peace and Security & Disaster Risk Reduction Programme Associate のポジションで活動に従事。政府や警察機関における女性のエンパワーメント、災害下において脆弱性をもつ、女性、妊婦、子ども、お年寄りをサポートするためのトレーニングの運営を経験。



7. プログラム

時間	内容	発表者／司会
18:00-18:05	<ul style="list-style-type: none"> ・開会のあいさつ ・「教育を攻撃から守る国際デー」の紹介 	SCJ ユース
18:05-18:20	<ul style="list-style-type: none"> ・登壇者 自己紹介&団体紹介 	Apolline Montoya 大島 義幸
18:20-18:45	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ①：紛争下の教育への攻撃や教育支援の現状について <ul style="list-style-type: none"> - 数字から見る教育への攻撃、原因と種類 - 緊急時における教育支援の継続の意義 	Apolline Montoya 大島 義幸
18:45-19:10	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ②：紛争下の教育を守るための具体的な取り組みと成果について <ul style="list-style-type: none"> - 学校保護宣言とそのインパクト - 緊急支援から開発への「ネクサス」 	SCJ ユース
19:10-19:15	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者への質問 	SCJ ユース
19:15-19:25	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ③：開発関係者、一般市民、それぞれの立場から紛争下の教育を守るためにできることについて <ul style="list-style-type: none"> - 既に開発教育に携わっている立場から - 市民社会・学生の立場から 	Apolline Montoya 大島 義幸 SCJ ユース
19:25-19:35	<ul style="list-style-type: none"> ・質疑応答・感想のシェア 	SCJ ユース
19:35-19:40	<ul style="list-style-type: none"> ・閉会のあいさつ 	SCJ ユース

8. 議論方法

- ・ ユースによるインタビュー形式
- ・ Q&A 機能を使用したクイズ、投票、参加者同士の意見交換

以上